

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立神野小中学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童（生徒）の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童（生徒）一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童（生徒）の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和7年4月17日（木）

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童（中学校3年生生徒）

■ 調査の内容

（1）生活習慣や学習環境等に関する質問調査

児童（生徒）に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 （例）学習に対する興味・関心、授業内容の理解度、 基本的生活習慣、家庭学習の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 （例）授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、 学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況 など

（2）教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

■ 教科に関する調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は、小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語、算数・数学、理科に限られています。さらに、出題は、各教科の限られた分野（問題）です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部分」であり、「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

■調査結果及び考察

1 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

(1) 結 果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と肯定的に回答した児童(生徒)の割合。

佐賀市学校教育ビジョンに関連する調査項目	本校 %	全国平均 %
学校に行くのは楽しいと思う。	87.8%	86.5%
将来の夢や目標を持っている。	82.4%	83.1%
自分には、よいところがあると思う	92.1%	86.9%
学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	87.8%	84.9%

「学校に行くのは楽しいと思う」の項目は、全国平均より高い結果が出ています。

「自分には、よいところがあると思う」の項目は、肯定的な回答をした児童は全国平均よりも特に高い結果が出ています。

家庭学習の様子に関する調査の項目	本校%	全国平均 %
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	14.0%	12.1%
「2時間以上、3時間より少ない」	11.4%	12.8%
「1時間以上、2時間より少ない」	28.1%	29.1%
「30分以上、1時間より少ない」	32.5%	27.4%
「30分より少ない」	8.8%	12.9%
「全くしない」	5.3%	5.7%

家庭学習時間については全国平均とほぼ同等ですが、1時間未満の児童が45%以上おり、中には全く家庭学習をしていない児童もいました。

(2)改善に向けての取り組み

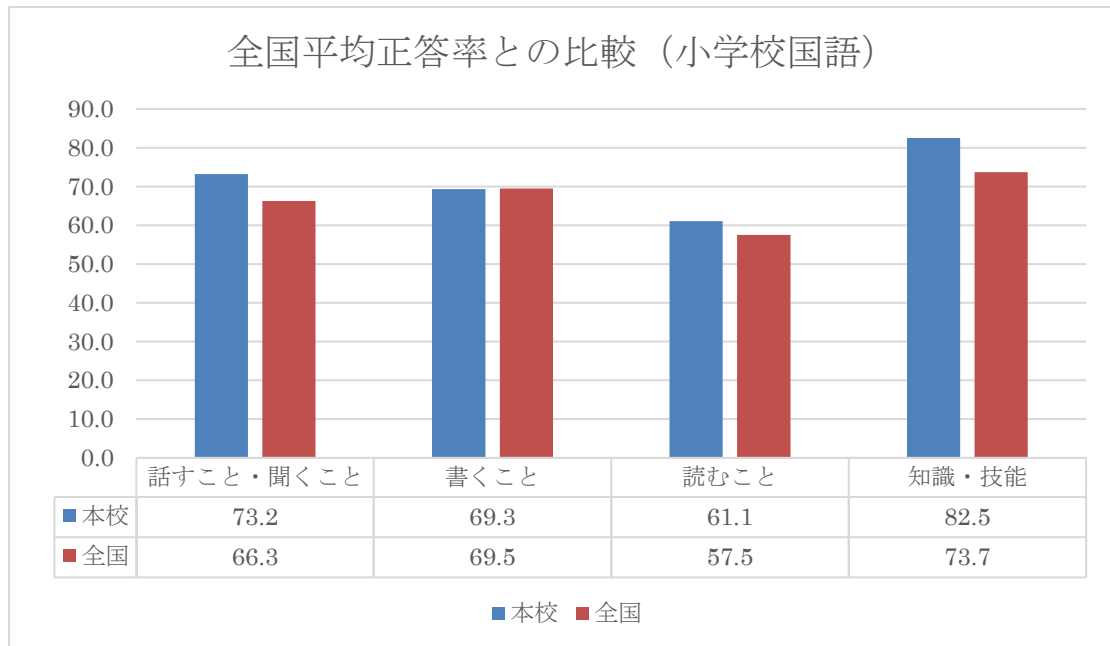
【学校では】

- 毎日の給食時間により行いをした子どもたちを全校放送で紹介しています。全職員持ち回りで今年もすべての子どもたちを紹介するように取り組んでいます。
- 学級会を通して、自分の意見を発表したり、友達の意見を受け入れたりすることで合意形成を行う機会を設けています。
- 学校からは、学年に応じた宿題を出しています。自主学習（自学）についても2年生以上で取り組んでいます。よりよい自学のノートを示すなどして質の向上を図っていきます。

【ご家庭では】

- 週末はお子様と一緒に読書に取り組まれてはどうでしょうか。読んだ後に感想を交流すると、児童も読書への意欲が高まり、読書の幅が広まったり読書量が増えたりすると思います。
- 「家庭学習の手引き」をご覧になり、学習時間の目安や、自主学習の説明を参考に、自分で決めて学習できるように励ましてください。

2 国 語



(1) 結果

「話すこと・聞くこと」「読むこと」「知識・技能」は、全国平均正答率を上回っています。また、無解答率をみると、半数ほどの問題で全国平均よりも低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査で、「知識・技能」が9ポイント上回りました。国語科の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの内容領域の根幹をなす言葉の力であり、普段から、漢字や言葉の学習、音読などの成果が表れていると考えられます。課題は、問題形式の「記述式」の正答率を上げることです。正答率69.3%は、全国平均正答率69.5%をわずかに下回っており、苦手になっている児童が多くいます。主体的な学びの視点で授業改善を図り、児童の記述力を高めることが、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の力を伸ばすことにつながると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

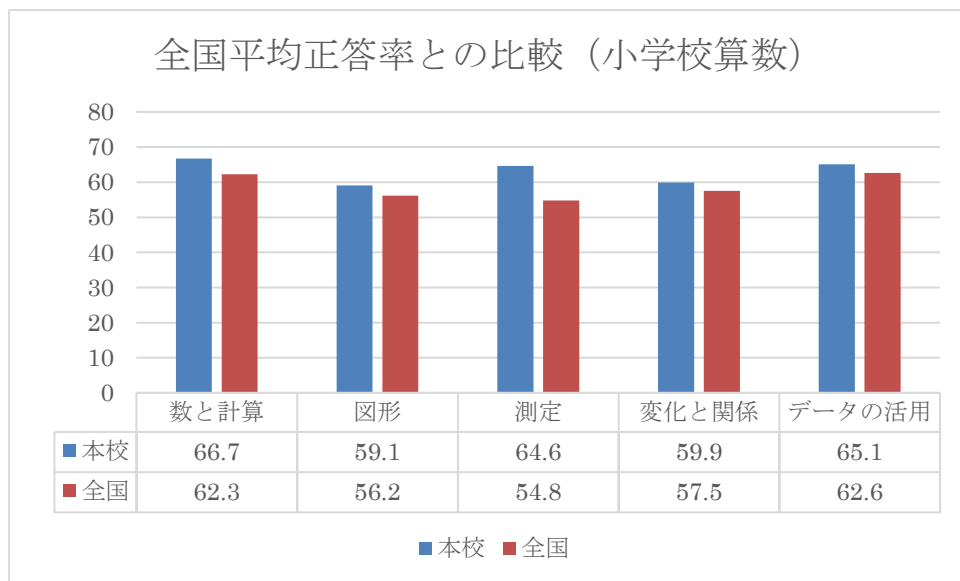
【学校では】

- 子どもが主体的に学べるように、授業の在り方を工夫すること（主体的・対話的で深い学び）で、子ども同士が話し合いながら、深く学んでいけるようにします。
- 行事等の振り返りを書かせる時、文字数や書く条件を付けて作文を書かせるようにし、書く機会を増やすようにします。

【ご家庭では】

- 音読を大切にしていきましょう。繰り返し音読することで、文の構成、文節ごとの区切り、言葉の意味を理解することができ、要点や意図を捉えることもつながります。
- 読書を大切にしていきましょう。週末など親子で一緒に読書をしたり、低学年の場合は読み聞かせをしたりすることでお子さんの読書への興味関心が膨らみます。市立図書館や本屋に定期的に行くことも、読書習慣をつける上でおすすめです。

3 算数(数学)



(1) 結果

全ての領域で全国平均を上回っています。また、無解答率を見ると、ほぼすべての問題で全国平均より低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「C 測定」の領域は 10%ほど全国平均を上回りました。一方で、はかりのメモリを読む問題や、問題を解決するために必要な数量を見出し、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述する問題の正答率が全国平均を下回っていました。「B 図形」の領域の、台形の意味や性質について理解しているかをみる問題の正答率が全国平均を下回っていました。今後、図形の観察や操作活動などを通して、図形の意味や性質を考えることができるようにすることが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

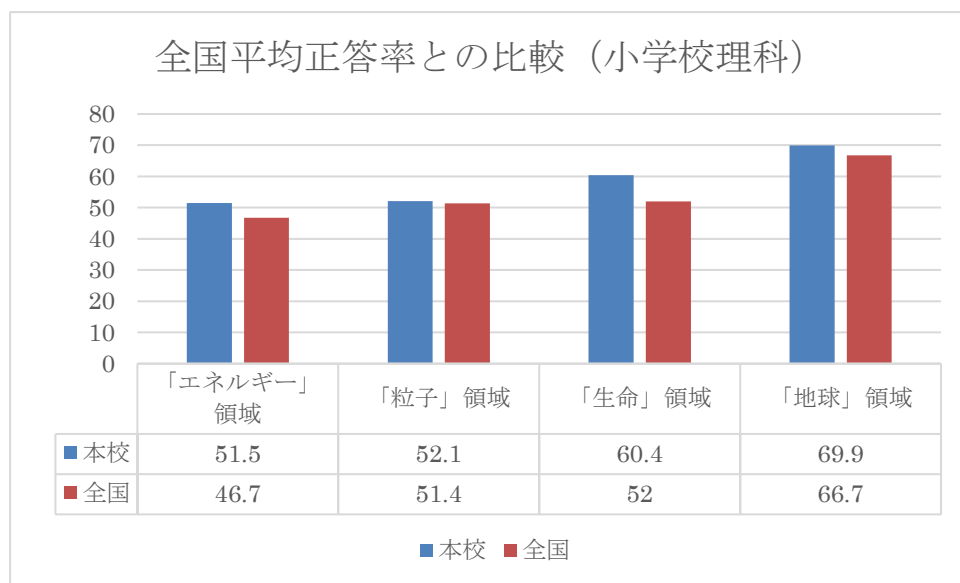
【学校では】

- 図形の定義を定着させるために操作活動を行い、そこから導き出された図形の特徴を言語化して視覚的に理解させるようにします。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。また、自分の考えを、式や言葉を使って、論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。

【ご家庭では】

- お子さんのドリルやプリント等の宿題の様子やテスト、ノート類をご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 算数が好きにするには、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。生活場面で算数を使ってみてください。「おかし分けで割り算」「料理で重さ」「お風呂で水のかさ」「買い物で暗算」「折り紙で分数」「家の中で図形探し」など、ちょっと意識するだけで、身のまわりには算数を使えるものが意外とあります。

4 理科



(1) 結果

全ての領域で全国平均を上回っています。また、無解答率を見ると、すべての問題で全国平均より低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「生命」の領域の観察の記録が誰のものであるかを選ぶ問題の正答率が全国平均正答率を8.2%上回っていました。また、「エネルギー」の領域のまとめからその根拠を実験の結果を基にして書く問題の正答率も全国平均正答率を上回っていました。身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかみる問題の正答率が11.5%と、学んだことを日常生活に当てはめて考えることに課題がみられました。日々の授業で学んだことを授業レベルに留めるのではなく、日常生活に応用する場面を設定することが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 授業で問題解決に取り組むのはもちろんのこと、日頃から理科への興味関心をふくらませる場を提供できるように、理科室前展示を活用していきます。例えば、磁石の性質と電気の通り道について簡単に実験できるような場を設置します。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。また、結果に対する考察を論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。

【ご家庭では】

- 理科が好きになるためには、生活の中で「おもしろいな」、「不思議だな」と思い、調べようとする姿勢をサポートすることが大切です。子どもが不思議や疑問を感じている姿が見られたら、インターネットで安易に調べてしまうのではなく、ぜひ一緒に考え解決していただけると理解が深まると思います。
- 佐賀県立宇宙科学館や佐賀県立博物館、各種水族館などのイベントチラシ等も配布しております。お時間があるときに一緒に行ってみることで、興味関心が向上することもあります。

